

TAKESHI KAKEHASHI

Official fanclub Newsletter No.22

2016年 秋号



ご挨拶



ウィーン：ベートーヴェン像の前で

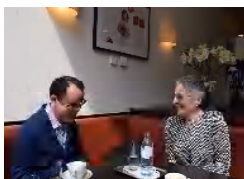
ファンクラブの皆様、お元気にお過ごしでしょうか？

僕はお陰様で元気に過ごしています。ライフワークと考えている子どものためのクラシックの活動は、ファンクラブの方々のご尽力で順調に回数を重ねており、子どもたちの素直な反応に逆に力をもらっています。

日々の生活といえ、これから新しく取り組まねばならない曲が目の前にうず高く積み上げられているので、それを一つずつこなしていく毎日です。

新しくチェロとのデュオを開始しましたし、ダヴィッドさんとのデュオも来年の曲が難曲揃いです。メンデルスゾーンのヴァイオリンとピアノのための協奏曲を来年アルバニアで弾くことになりそうなのですが、まだ譜読みもしていない状態です。またベートーヴェンの4番の協奏曲にも新しく挑戦することになりました。来年のリサイタルのために新しい曲を開拓する必要もあります。やらねばならない曲があまりにも多く不安になりますが、またそれらの曲から力をもらっている面もあります。

皆様にご満足いただけるよう頑張ります。



2016年4月2日 ウィーンで恩師、
ヴァイスハール先生と久しぶりの再会。
懐かしく嬉しい時間でした。

教える

梯 孝則

演奏家は、演奏することと並行して教えることで生業を保っている人がほとんどだと思う。剛之がまだ若く売れっ子だったころ、某音楽大学の名誉教授が、大学で教える気はないかと打診してきたことがあった。どこの音楽大学も生き残りをかけて、様々な手を考えていたころで、その時「うん」と言えば、剛之も大学の先生の肩書きが付いたかもしれない。しかし「剛之は人に教えることなど無理」と頭から考えていた親は即座にお断りした。

時は移り、剛之のファンクラブの事務局長をして下さっているウィーンで同門だったピアニストの稲田氏が「東京音楽院」を



お教室で

目次

Page1

◆ご挨拶 梯 剛之

Page1~3

◆エッセイ 梯 孝則
教える
1回目のコンサート
リージングの水車小屋

Page4

◆“音楽の友”8月号掲載
演奏評

Page4~5

◆プログラム・ノート
“梯剛之の新しい耳”
金子哲理

Page6~7

◆熊本地震チャリティー・
コンサート 稲田俊介

◆米沢信用金庫90周年
記念ピアノ・リサイタル
加藤秀明

Page7~8

◆ルーテル市ヶ谷ホール
コンサート 風間幸子
◆盲導犬は私たちの大切な
パートナー 風間幸子

Page9

子どもに伝える
クラシックの頁

◆大泉第三小学校
稲葉文子

Page10~11

◆川西小学校 加藤秀明

Page11

◆新島学園創立70周年
記念サマーコンサート
佐藤三充/光子

◆那須国際交流
フェスティバル

Page12

◆事務局便り CDご紹介

別紙:

コンサート・チケット情報

立ち上げることになり、そこの先生になってくれないかという話 came。この時も僕は「楽譜を読めない剛之が教えることなどできるのかな」と半信半疑だったが、ものは試しと引き受けることにした。果たして剛之に教わりたいという人が現れるのだろうか？ ところがいたのです。それは音楽大学の学生の若き女性だった。初めてのレッスン、どんなことになるかと固唾をのんで見守っていたら、「案ずるより産むは易し」でちゃんとそれなりに教授らしい雰囲気です。レッスンを始めたではありませんか！ 楽譜は見えないけれど剛之はレパートリーにした曲はすぐに弾けるという特性があるので、模範演奏することで、立派にその役を果たすことができるということが分かった。時折挟む音楽の内面の比喻も結構面白く、剛之はこういうふうには音楽を感じていたのかと、新たな発見をした思いだった。

聴講生として参加したファンクラブのMさんが、「演奏会とはまた違った感動を受けた」と感想を述べて下さったのには、剛之の新しい展望が見えた気がしてとても嬉しかった。



☆梯剛之マスタークラスのレッスン風景が動画でご覧いただけます。

<http://www.kons-tokyo.com/blog/2016/10/05/>

2016年9月3日（土）東京音楽院開校記念コンサートで同僚の教授陣と。

♪♪2016年5月 1回目のコンサート ～ウィーンという街のクラシック音楽の底力～

5月のウィーン、、、「黒歌鳥」が美しい声で鳴き交わし、新緑の間を爽やかな風が「そよそよ」と吹きわたる「美しき五月に」の世界をイメージして来てみたら、現実には、毎日どんよりと曇り、行き交う人は冬装束のフードを目深にかぶって北風に追われるように足早に歩く、そんな「冬の旅」さながらの世界が待っていました。寒いので散歩する気にもならず、歩くことといえばダヴィッドさんとの練習に出かける時と、食事を食べに行く時だけ。ピアノを練習するか、ごろっとベッドに横になるかという超シンプルな生活をしているのが良い結果をもたらすのか、剛之の指回りは回転数がだいぶ早くなりました。



ウィーンの街を散歩

それでも一昨日から急に天気が良くなって、カフェやレストランが一斉に通りにテーブルをセットし、太陽の恩恵に浴しながら人々が飲み食いする例の風景が現れました。そんな暖かく、雲ひとつない青空が広がる、一年で最高の日ではないかと思われた昨日、ダヴィッドさんとの最初のコンサートが、クラウドさんの自宅で行われました。クラウドさんの家は、ウィーンの街が西方で山になって消えるその境目の緑豊かな高級住宅街にあります。綺麗に手入れされた広い庭から隣の家が樹木の緑越しに見えるそんな部屋に古いベーゼンドルファーがあって、そこが今日の演奏会場です。まだまだ太陽の光が眩しい夕方の方の5時開演だったはずなのですが、あいにく、最寄り駅までの地下鉄のU4が工事中でシェーンブルン駅から代行バスに乗り継ぎしなくてはならないという、日本では考えられない事態になっていて、結局始まったのは30分遅れでした。それでもまだ暖かく爽やかな日差しが降り注ぐ時間なので、クラウドさんの提案で窓を開け放ち、「鳥の声」とモーツァルトの音楽がコラボしての音楽会になりました。

今回で4回目になりますが、今までで最高のお客様の入りで、入りきれない人は台所で聴いている状態でした。剛之もダヴィッドさんも力を存分に出しきった良い演奏で、客席も大いに沸き、ダヴィッドさんも満足そうでした。

演奏会後ウィングラスを片手にパーティーが始まって一段落したところ、本格的なピアノ演奏の音が聞こえてきて、周りの人の話し声も低くなってきたのでピアノ室に戻ったら、若い長身の男性ピアニストが現代曲、スカルラッチェ、バッハ、ショパンとたて続けに演奏する第2回目の音楽会状態になりました。お客様も結構客席に残っていて、いくらでも音楽を聴いていて飽きない人たちなんだと驚きません。彼が演奏をやめたら次々に女性のピアニストが名乗りをあげて演奏を始め、一体何人のピアニストが客席にいたんだろうと思ってしまいました。



クラウスさんのご自宅の庭で

夜も更けてそろそろ帰ろうかという時間になって、それまで庭に出してあった薪ストーブの前でペトラさん、ダヴィッドさん、剛之等と談笑していた二人の女性ピアニストがピアノの前に座ると気の向くままの即興の名曲連弾大会を始めて、二人の才能にも驚かされました。そこへ主催者のクラウスさんのバリトンも加わってシューベルトの「リートの夕べ」が始まったのですが、お国ものとはいえ、大変な美声と歌唱力で、改めてウィーンという街のクラシック音楽の底力を実感することができた一夜でした。

♪♪2016年5月 リージングの水車小屋

オーストリアの南、イタリアとの国境に近い、夏でも白い雪を頂いた山々に囲まれた風光明媚な場所にリージングという村があり、そこでダヴィッドさんとのデュオを毎年行っていることはすでに何回も報告文を書かせていただいているが、今回は主催者のウェルナーさんが水車小屋のある村に連れて行って下さることになった。



車で20分ほど奥に行ったところにその村はあった。まず道を尋ねるために近くのペンションのレストランに立ち寄ったら、この日は祝日だったので近くの村人が家族連れで集まっていて、お祭りでもやっているような賑わいを見せていた。我々が水車小屋見学に来たことを告げると、ペンションの女主人がわざわざ我々一行の道案内役を買って出て、同行してくれた。急な斜面の山道を5分ほど登った所にその水車小屋の群はあった。



それらは水車小屋という、僕が持っていたひっそりたたずんでいるというイメージではなく、急な山の斜面に10軒ほどの小屋が並べ、水が木製の樋の中を勢よく順繰りに流れ下るといふ、まるで中世から続く工場に紛れ込んだような印象であった。それらは観光のために残してあるのではなく、実際に粉ひき職人が2人働いていた。彼らは我々を小屋の中に入れてくれて説明してくれた。日本の蕎麦も石臼で挽いたもののおいしいと聞いたことがあるが、こちらのパンは日本で食べたことのないおいしさだと思っていたら、水車小屋で挽いた粉で作っていたことが分かり、なるほどと納得した。

この写真には案内役の女主人、2人の粉ひき職人と我々一行が写っている。

梯孝則PROFILE 1962年国立音楽大学入学、1977年N響入団。2003年N響定年退団。

現在は「古典音楽協会」「アカンサスⅡ」「N響団友オーケストラ」各団員として音楽活動を継続している。



【音楽の友8月号に 演奏評が掲載されました】

■6月4日(土) 14時開演 東京文化会館小ホール

■演奏曲目

- | | |
|---------|-----------------------------------|
| モーツァルト | : サルティの主題による変奏曲 k. 460 |
| | : ピアノ・ソナタ第5番ト長調 k. 283 |
| | : ピアノ・ソナタ第11番イ長調 k. 331「トルコ行進曲付き」 |
| ベートーヴェン | : ピアノ・ソナタ第8番ハ短調 作品13「悲愴」 |
| | : ピアノ・ソナタ第31番変イ長調 作品110 |



～掲載された評論家上田弘子氏のご批評そのまま転載させていただきます～

近年、著しく進化した梯の音質。それゆえ前半のモーツァルトと後半のベートーヴェンで、ウィーンの森を散策した感。

モーツァルトでは、変奏形式が軸となって組まれている。《サルティの主題による変奏曲》はその名のとおりに変奏型だが、軽快な展開はモーツァルトのオペラそのものの愉しさ。「ソナタ第5番」はソナタの骨格の中にある、甘美なフレーズと装飾音符が変奏の役となる。何より各楽章の構成を梯は確固と聴かせ、心地良い速度は自然界の摂理に等しい。「ソナタ第11番《トルコ行進曲付き》」では形式の成熟を示す。そしてやはり自然なテンポ感で加えて梯独特のアゴーギグゆえ、ベーゼンドルファーの美音が際立つ。

ベートーヴェンでは、真理の森へと入って行くよう。「ソナタ第8番《悲愴》」は抑えた喜怒哀楽が楽曲の真意をつき（中でも第1楽章が秀逸）、「ソナタ第31番」は人生を粛々と歩む様相。長調の明るさも、昼間の陽射しのようなモーツァルトに対して、夕方の木漏れ日のようなベートーヴェン。そう奏する梯の打鍵に感服。（6月4日・東京文化会館<小>）<上田弘子>

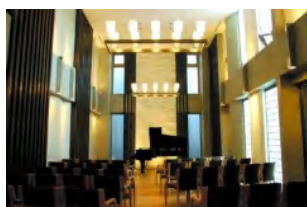
※音楽之社様及び上田弘子様へ転載のご了解を頂戴しております。ご協力に心より感謝申し上げます。

2016年5月21日、東京・世田谷三軒茶屋のサロン・テッセラで、梯さんはテッセラ音楽祭実行委員会が主催する“テッセラの春・第18回音楽祭”今年「新しい耳」というタイトルの第一夜～第三夜まで続く、その第一夜の演奏者として出演しました。

梯さんのマネジャー、ソナーレ・アート・オフィスの金子代表が、この演奏会に当たってプログラム解説をされました。梯さんが演奏曲を選択する思いや、曲目の背景を知るよすがともなり、たいへん興味深いプログラム・ノートとなっています。金子氏の了解を得て原文のままここに掲載させていただきました。

梯 剛之の “新しい耳”

ソナーレ・アート・オフィス 金子哲理



- | | | |
|---------|---------|---------------------------|
| Program | モーツァルト | : サルティの主題による8つの変奏曲 K. 460 |
| | シェーンベルク | : 6つの小品 作品19 |
| | シューベルト | : 楽興の時 第3番 |
| | ベルク | : ピアノ・ソナタ 作品1 |
| | ベートーヴェン | : ピアノ・ソナタ第31番変イ長調 作品110 |

梯 剛之のここ数年のリサイタルのレパートリーは、モーツァルトではピアノ・ソナタ第11番 K. 331「トルコ行進曲付き」、「幻想曲 K. 397」、「ロンド K. 485」、「サルティの主題による8つの変奏曲」。ショパンがピアノ・ソナタ第2番「葬送」と第3番、「24のプレリュード」「バラード 全4曲」、そしていくつかのノクターン、ポロネーズ、エチュード。さらに

リストのソナタ、シューマンの「子どもの情景」、ドビュッシーの「映像」第1集などとなっている。

ピアノ音楽のツボを押さえた心憎い選曲だが、小学校卒業と同時にウィーンに渡り20年近くの歳月をそこで学び、過ごした梯に、ぜひとも弾いてもらいたい作品群が欠落していることにも気付かずにはいられない。3年前にスタートしたウィーン出身のヴァイオリニスト、ヴォルフガング・ダヴィッドとのデュオ・リサイタル・シリーズではベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタを継続して取り上げ、既に10曲中5曲を披露しているにも関わらず、ベートーヴェンのピアノ・ソナタはここ5年間ほとんど取り上げられていないのだ。また、近代音楽史の大きな転換点となった新ウィーン楽派の作品を聴くチャンスにも恵まれていない。

“新しい耳” 出演の機会を得た梯は、彼にとっての新しい耳 “ ミッシング・リング” に光を当てたようだ。プログラムはウィーン古典派、モーツァルト：「サルティ変奏曲」(1784年)で幕を開ける。



【サルティの主題による8つの変奏曲K. 460 (454a) : イタリアの作曲家サルティのオペラ「漁夫の利」のアリア“仔羊のように”による変奏曲。サルティがサンクト・ペテルブルグの宮廷楽長に就任するためにロシアへ向かう旅の途中、ウィーンに立ち寄った際に作曲され、サルティの前で披露された。】

そのあといきなり振り子を130年早送りして、シェーンベルクの「6つの小品」(1911年)へ聴く者をいざなう。

【6つの小品:非常に短い6つの曲からなる。6曲相互は関連性を持たず、長調、短調、フリギア旋法などが入れ替わり、調性はその機能を失う。作曲者の言う“汎調性”の追究。】

そして振り子は再び19世紀に戻り、シューベルトの「楽興の時」(1823-28年)第3番。あたかもウィーン新旧の音楽世界の振り子の揺れを楽しむような演出。

【楽興の時第3番へ短調 作品94 D. 780 - 3: 6曲からなる “楽興の時”のうち、シューベルト存命のころから広く愛されていたのが第3番。我が国ではNHK-AMラジオで1949年以来毎週日曜日の朝に放送されている「音楽の泉」のテーマに使われておなじみになった。】

振り子はもう一度1911年にタイムトラベルし、シェーンベルクに師事したアルバン・ベルク唯一のピアノ作品である「ピアノ・ソナタ作品1」(1907-8年)で、前半のプログラムを終了する。

【ピアノ・ソナタ 作品1:1904年からシェーンベルクのもとで作曲を学んだベルクは、当初この作品を伝統的な多楽章のソナタとして構想したが、師のアドバイスにしたがって単一楽章のソナタとなった。形式上は古典的なソナタ形式によっているが、冒頭の楽想からすべての部分をつくりあげる、また、ソナタ形式を特徴づける転調が行われななど、内容は革新的なものとなっている】

18世紀と20世紀のタイムジャンプを繰り返した梯は、最後にいよいよベートーヴェン、それも後期三大ソナタの一つ、作品110(1821年)で、ウィーンの音楽世界の壮大なタイムトラベルに終止符を打つ。

【ピアノ・ソナタ第31番変イ長調 作品110:大作「ミサ・ソレムニス」と並行して作曲が進められた。後期の作品群に特徴的な簡素な美しさにあふれている。第3楽章ではフーガが用いられ、“ベートーヴェンの描くあらゆる幻想と同じく、このフーガは世界を飲み込み、超越するものである”と評される。】



熊本地震チャリティコンサートで演奏

ファンクラブ事務局長 稲田俊介

2016年7月3日、白寿ホール（渋谷区）で、熊本地震チャリティコンサートが開催されました。世界的オペラ歌手ジョン・健・ヌッツォさんの呼びかけで、ヴァイオリニスト古澤巖さんなど国内外で活躍するアーティストが勢揃い。剛之さんはソロ・ピアニストとして出演しました。

4月半ば、震度7を超える地震が相次ぎ、その後も続く余震、石垣の崩れ落ちた熊本城、土砂に埋まる幹線道路など、伝えられる熊本地震の惨状に日本のみならず世界各国から支援の手が差し伸べられる日が続いた5月某日、私の携帯に見知らぬ番号から電話がかかってきました。それはジョン・健・ヌッツォさんご本人でした。

ヌッツォさんは、かつてウィーン国立歌劇場専属歌手としてウィーンに在住。剛之さんとはそのころからの友人で、二人はイタリアで共演もした間柄です。「なんとか音楽で熊本を勇気づけたい。是非協力してくれないか」というヌッツォさんの思いに、剛之さんは即快諾。こうして剛之さんの出演は決まりました。



.....ご出演の皆さまと.....

コンサートは、ヌッツォさんら9名のオペラ歌手と古澤巖さん、そして剛之さんがそれぞれ順番に演奏。出演者は皆楽しい方ばかりで、陽気なオペラ歌手の中に剛之さんも混ざり、普段のソロコンサートとは全く違う雰囲気を楽しんでいるようでした。唯一のソロ・ピアニストとして出演した剛之さんは、シューベルトの即興曲第3番を演奏。演奏が始まるや否や、会場はそれまでの楽しげな雰囲気が一変。ピアノから紡ぎ出される旋律に誰もが聴き入らずにはいられない。まるで賛美歌のようにホールに響き渡り、すべての人の心に溶けこんでいくようでした。

急きょ決まったコンサートでしたが、当日は大勢の方にお越しいただきました（当ファンクラブ会員の方にもお越しいただきました。ありがとうございました）。

集まった義援金215万1019円は毎日新聞東京社会事業団を通して熊本へ届けられました。このコンサートをきっかけに再会したヌッツォさんと剛之さん。来年は福島での共演が決まりました。（詳細は追ってお知らせします）



米沢信用金庫創立90周年記念 ピアノ・リサイタル

ファンクラブ会長 加藤秀明

6月29日、米沢信用金庫創立90周年記念事業として梯剛之ピアノリサイタルを企画した。昨年10月にはプレ90周年事業としてフリーバーズと梯剛之のジョイントコンサートを開催、大変な好評を博し聴衆の期待が高まっていたところでのリサイタルである。

会場の伝国の杜ホール（収容500名）は超満員。今回のリサイタルでは、冬の厳しさや春を迎える喜び、鳥の声や自然の素晴らしさなど、ウィーンと米沢には共通点が多いということで、梯さんの思い出もことのほか強く感じられた。作曲家と曲に対する愛情あふれる解説は演奏前から聴衆の心をひきつけ、演奏者と聴衆と会場がひとつになった素晴らしいリサイタルであった。

プログラムには、梯さんの魅力を少しでも多く知ってもらおうと、20年前の国内デビューの際、堀井前会長が梯さんに贈った詩を掲載した。

演奏会は、前半から感動のあまり涙ぐむ姿が見受けられ、聴衆の興奮は最後の「熱情」でピークを迎えた。第1楽章から鬼気迫る演奏で、第2楽章もさらに集中度合いが高まり、第3楽章はまさしくベートーヴェンが乗り移ったかのような熱演。今まで聴いた誰の演奏よりも、はるかに密度の濃い高みにある演奏であった。ファンクラブ事務局の稲田さんが準備したCDと本は完売、サイン会も長蛇の列で遅くまでロビー全体が興奮で包まれていた。なお、東京からは野崎さんご夫妻をはじめ6名のファンクラブ会員が駆けつけてくれた。

翌日の6月30日は、午後2時から米沢東高等学校OB会主催のリサイタル。前日とは別のプログラムである。同校は、剛之さんの祖母・井上熙子先生が音楽教師として初めて赴任した学校。15年前にも梯さんを招きリサイタルが行われたが、今回も大勢のファンが詰めかけた。また、熙子先生の教え子である滝沢美恵子さん(東京芸大卒。94歳)が東京から聴きに來られ、その師弟愛に胸を打たれた。会場の米沢市民文化会館(収容1,000名)はほぼ満席で、聴衆も大満足の様子であった。

またこの後、一日置いて、任意団体“子どもに伝えるクラシック”の活動として、米沢市の隣にある川西町立中学約400名の生徒を対象とした演奏会をお願いしていた(後述：子どもに伝えるクラシックの頁)。三日連続の演奏ツアーとなり、梯さんには大変なプレッシャーと心労があったことと思われるが、その場面その場面での気持ちの切り替えが実に見事であり、演奏ばかりでなくその生き方も達人の域に入りつつあると感心した次第。

剛之さん、沢山の感動を大変ありがとうございました。

当ファンクラブには、視覚に障がいをお持ちの会員も多くおられます。今回はその会員のおひとり、風間幸子さんにコンサートの感想とパートナーであるアイメイト(盲導犬)との関わりについてご寄稿頂きました。



2016年8月25日ルーテル市ヶ谷ホールでのコンサートに行ってきました

～林 徹也 ヴィオラ室内楽 新シリーズV～

東京都町田市 風間幸子

この日も日中の暑さが残る夕刻、私はアイメイト(盲導犬)と、友人のお孫さんでヴァイオリンを習っている高校生を伴って行きました。

私の目的は、まだ行ったことのないウィーンの森、風薫る中で鳥の囀りと川のせせらぎが聞こえてきそうな梯剛之&ヴォルフガング・ダヴィッドさんとシュトゥットガルト室内管の伝統息づく林徹也さんとギョルギー・ボグナーさん、この二組のデュオ演奏を聴くことでした。さらに、ピアノ五重奏曲<鱒>には、読売日響のコントラバス奏者石川浩之さんが加わるという豪華な共演に期待がふくらんでいました。

第一部は、ヘンデル：ヴィオラとチェロのためのシャコンヌ ハ長調(編曲 林徹也)
モーツァルト：ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲 ト長調が格調高く演奏されます。
次いで梯剛之さんとヴォルフガング・ダヴィッドさんの共演。ベートーヴェン：ピアノとヴァイオリンのためのソナタ第10番 ト長調でした。

お二人の息の合った音色、梯さんの1音1音が優しく時に荒々しく私の胸にこの日も響いてきました。流れる3連符の曲想の時も静かなピアニシモの音も1音1音が剛之さんの指から醸し出され、際立って美しく響きます。今回もまた、大きな感動をいただきました。

第二部は全員でシューベルト：ピアノ五重奏曲 イ長調「鱒」の演奏です。シューベルトの有名な「鱒」の美しい旋律が流れてきました。アンコールでは続いて「鱒」の第5楽章が奏でられ、もう一度演奏家の皆さまの熱演を聴かせていただき、大いに楽しみました。

伴ったお嬢さんは青少年のオーケストラでも大事なパートを弾いている方なので、学業で忙しい中どうしてもダヴィッドさんのヴァイオリンの音を聴いて欲しくお誘いしましたが、嬉しいことに感想を寄せてくれました。「息がぴったりの素晴らしい演奏でした。祖母とCDを何度も聴いています。また機会があれば聴きに行きたいです」

私は目が見えませんが舞台の状態が分かりません。楽章の間が長く空いて、観客から微かな笑いもあったので、彼女に尋ねました。すると、今、飛行機の音がして、梯さんはそれが気になって空を仰ぐ仕草をされたので、それへの反応ではないですか？との返事。そうなんです、梯さんは敏感にそんな音も聞こえてくるので、今日は良い状態で弾かれるのだと知りました。

梯さん！ ショパンの流れるようなピアノ、シューベルトが奏でた静かなウィーンの森の音色、荒々しいベートーベンの音等々、梯さんの美しい、優しく、そしてきりりとしたピアノ音色をたくさん聴かせて下さい。私はこれからもアイメイトと一緒に聴きに行きます。

～アイメイト（盲導犬＝協会によって呼び名が異なります）は私たちの大切なパートナーです～



梯さんのコンサートには、私だけでなく、ほかにも盲導犬を伴っている方がおいでになります。この機会に会報の紙面をお借りして、このアイメイト（以降ここではアイメイトと記載致します）についてお話ししたいと思います（演奏の間、パートナーが気持ちよくいびきをかいたり、クシャミをしないよう気をつけたいです、、、苦笑）。

日本には、盲導犬の訓練所が10数か所ありますが、訓練は統一されていません。盲導犬とは、視覚障がい者の目の代わりになって一緒に歩く犬のことで、ハーネスという胴輪を付けています。このハンドルを持って犬の動きを感じながら歩いていくのです。

アイメイトというのは、日本で最初に盲導犬の訓練をされた塩屋健一氏が名付けた＜私の目の代わりをしてくれる愛するパートナー＞という意味のネーミングで、アイメイト協会を卒業した子を云います。

アイメイトたちには、繁殖ボランティアのところですてきな名前が付けられます。でも、皆さんから「名前は？」と聞かれることがありますが、お伝えできないことになっています。それは、私たち視覚障がい者のパートナーでいる間は彼らは＜仕事＞だからです。名前をお伝えして、その人から「〇〇ちゃん、えらいわねえ」などと声を掛けられると嬉しくて仕事が疎かになることもあるからです。その一瞬の時に段差があったり障害物があって、私たちが危険な目に遭うこともあるからです。アイメイトは、常に私たちの指示する声を聞きながら「こっちでいいの？」と私たちの仕草も見ながら一心に歩いています。

そんな健気なパートナーを静かに見守って下さい。そして、私たちが何か探している様子を見た時には、犬にではなく私たちに「お手伝いしましょう」と、どうして欲しいかを尋ねて介助して下さることをお願いしたいと思います。危ないと思った時には、「危ないです」と声を掛けながら右肩や右腕をつかんで教えて下さい。「こっちへ、向こうに」と言われても私たちには分かりません。また、横断歩道では、盲導犬に信号を見分ける訓練はしていません。視覚障がい者は、白杖歩行をしている人も、車の流れる音を聴いて信号を判断します。「今赤です」とか「青になりました」と声をかけて下さい。それが私たち視覚障がい者が安全にスムーズに歩けることにつながるのです、ありがたいことです。

アイメイトはコンサート中は、ずっと静かに演奏を聴いています。犬嫌いな方も居られるでしょう。でも、彼らは、静かに演奏を聴いていますので見守って下さい。ハーネスを付けている犬はペットではありません。盲導犬として大切な＜仕事＞をしています。

子どもに伝えるクラシック 活動報告

♡2016年度上半期に実施された活動♡

- 2016年 6月 11日 東京都練馬区立 大泉第三小学校
 7月 1日 山形県 川西町立川西中学校
 9月 1日 群馬県安中市 新島学園中学校・高等学校

♡2016年度10月現在予定されている活動♡

- 2016年 11月 24日 東京都町田市 小川小学校
 12月 8日 石川県 小松市立高等学校 芸術コース
 2017年 1月 22日 東京都町田市 小山中央小学校



2016年 6月 11日（土）、東京都練馬区立大泉第三小学校にて「子どもに伝えるクラシック」学校訪問コンサート が行われました。当コンサートは、大泉第三小学校道徳授業地区公開講座として開催され、1年生から6年生の全校生徒（616名）に加え、保護者、地域の方々など100名を超える方々にお越しいただきました。この活動実施の発起人、稲葉文子様（ファンクラブ会員）から梯さんに届いたお礼状を、ご了承いただき、当日の報告としてご披露いたします。尚、児童の皆さんからは梯さん宛に沢山の感想文が寄せられています。

演奏曲目 モーツァルト、トルコ行進曲／ベートーベン、「悲愴」1&2 楽章
 ショパン「子犬のワルツ」「幻想即興曲」／チャイコフスキー「四季」より1月
 梯さんの伴奏で会場全員の合唱「ビリーブ」

§ 大泉第三小学校での演奏をお願いして（御礼状） § 東京都練馬区 稲葉文子



緑多い学校です

この度は練馬区立大泉第三小学校での演奏会をプレゼントしていただき、本当にありがとうございました。

単なるいちファンクラブ会員の私の厚かましいお願いをお聞きとどけたださり、夢のような演奏会を開くことができました。ただただ、梯さんの演奏を児童たちに聴かせてやりたいという私の願いが実現しましたこと、感謝申し上げます。校長先生始め全教職員の積極的な取り組みが得られ、お招きできたこと、たいへんうれしいことでした。

梯さんの演奏の素晴らしさはもちろんのこと、児童たちの質問タイムでの手の挙がりようは、周囲に居た父母やその他の参加者の驚きようを見るまでもなく、梯さんのやさしいお人柄をみんなが感じ取った表れだったと思います。圧巻は、1年生の児童が思わず手をあげたけれど、指名された途端に質問を忘れてしまったのに、梯さんが児童の目線にまで腰を低くされ「忘れちゃった？ じゃ、握手しようか」と手を握ってくださったことです。そしてその子も落ち着き、再び手を挙げて、ちゃんと質問をし直すことができたことでした。子供らしく素直に心を開くことができ、予想だにしていなかったことでしたが、私はこの音楽会の成功を確信しました。

お蔭様で素晴らしい「道徳授業地区公開講座」を終えることが出来ました。なお、1校時目の道徳授業の中で、5年生が文溪堂の『5年生の道徳』に“心に通じる音楽を目指して・梯剛之”として掲載されたものを使用させていただきましたことをお報せいたします。

末筆ながら、これからも健康に留意され、ますますのご活躍をお祈りいたします。

(原文のまま)

§ 山形県 川西町立中学校 （於：川西フレンドリープラザホール） § 加藤秀明

梯さんは、子どもたちにクラシック音楽の素晴らしさを知ってもらおうと、＜子どもに伝えるクラシック＞の活動にも力を入れていて、これまでも多くの小・中・高の学校で演奏している。

今回は、米沢市の隣にある川西町立中学約400名の生徒を対象としたコンサート。この企画の話をしたら、「生徒たちが本格的なピアノを聴くのは初めて」ということで町長が大喜び、特別に川西フレンドリープラザホール(収容700名)を手配してくれた。当地は井上ひさしの出身地でホールは演劇向きに作られているが、音響もなかなかよい。



ちょうど中間テストが終了した日で、生徒たちもリラックスして聴いてくれ、美しい音色とピアノの迫力にびっくりしていた。「田舎ではなかなか本格的な演奏に接することはできないが、十代の多感な時期に情感あふれる演奏を聴けたことは生徒たちにとって素晴らしい財産」と校長と教頭が興奮気味に語ってくれた。

§ 新島学園創立70周年記念サマーコンサート<梯剛之ピアノ演奏会>を聴いて §

群馬県太田市 佐藤三允／光子



【活動日】2016年9月1日 於:新島学園礼拝堂

【演奏曲】ショパン:幻想即興曲／子犬のワルツ
シューベルト:楽興の時 第3番
モーツァルト:トルコ行進曲

三允：群馬県太田市在住の私たちはファンクラブの松本さんから誘われて結婚後初めてのピアノ演奏会に参加した。

安中市は亜鉛精錬所があるくらいに思っていたが、上毛かるたで名高い「平和の使徒(つかい)新島襄」の新島学園があり、そこでの演奏会とのこと。新島学園はぜひ一度見ておきたいという思いもあった。私たちは高校生の席の後ろの席で聴くことになった。

演奏会が始まる。これは何だという雰囲気が出る、大きく立派な礼拝堂というだけでなく、高校生たちが大人の大コンサートホールの聴衆よりも立派なのだ。作られたものでない自然な雰囲気の出場だ。

梯さんの演奏が始まり、私にも馴染みのドビュッシーの＜月の光＞やショパンの＜別れの曲＞が弾かれるとうれしかった。後で本人から聞いた、「そよ風が吹いている感じ」とはこんな感じなのかな～と思った。両手でピアノを高速に演奏するところでは、叩いていないはずの音が聞こえてしかも調和して美しいのだ。不思議な経験だな～と思っていたら、後刻会食の席での梯さんの話では「倍音をきちんと制御して弾く」のだという。ビックリでした。

光子：梯さんのピアノを聴きながら、私は不思議な境地にいたようでした。生家(山形県尾花沢市)の里山を祖母と一緒に歩き、陽だまりに座って風を受けたこと、また、居間で息子がピアノを弾いていたことなど、自分の生活史でストレスを感じなかったころのことを思い出していたようなのです。後刻、梯さんの「そよ風の中で弾いている気分だった」とのお話を伺い、同様な思いが自分の中にも伝播していたのかな、と穏やかな気持ちで余韻を感じて

いたのです。

三允：妻はピアノ演奏会を聴いた後興奮状態で、帰宅後、離れて暮らしている息子や娘にメールしたり、知り合いに電話したりと、平静に戻るまで1日半もかかった。唐突に息子家族に「練習用ピアノが欲しくないか？」とまでメールし、やんわり断られていた。音楽の力、梯さんのピアノの力は、初めての人でもこんなに感動させるのかと感心した。



新島学園礼拝堂にて

梯さん、素敵な演奏をありがとうございました。新島学園の高校生たちが醸し出す何ともいえない良い雰囲気、それを育てている学園の関係者にも感謝でした。

演奏会終了後、梯さんの上機嫌な話と学園の方々やファンクラブの方々の会話など、楽しい時間を過ごさせていただきました。

三允／光子：時々パソコンを教え、主に晴耕雨読の生活をしている三允と、仕事や公務を離れ脳トレ筋トレのために65歳からアコーディオンを始めた光子にとって、非日常の大変素晴らしい時間が持て、皆さまに感謝感謝でした。

♥♥子どもに伝えるクラシック事務局より♥♥

子どもに伝えるクラシックHPには、自主活動の都度、動画をUPしています。

<http://classic-for-children.org/>

この活動は、主として学校や被災地でのコンサート活動を軸とし、梯さんご自身のピアノ演奏を通じ、勇気や感動を感じて頂いたりクラシック音楽により親しむきっかけとなればと願って実施しております。会員の皆さまの母校やご関係先など、希望される学校がありましたら是非お気軽に下記事務局までご相談ください。

事務局 E-mail : info@classic for Children

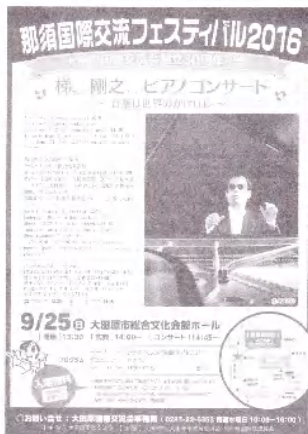
◀新聞記事ご紹介▶

那須国際交流フェスティバル2016 ～音楽を通じ異文化理解を～

2016年9月25日（日）大田原市総合文化会館ホール

梯さんは毎年行われる那須国際交流フェスティバルに招聘されての演奏です。会場は満席。梯さんのピアノの音色に感動の涙を流す方も少なからず見受けられ、記念行事に相応しい演奏会でした。

尚、この梯さんの演奏は会員の野崎様のご支援を得て実現しました。また、当日のピアノ調律は同じく会員の上海道氏が手がけて居られます。



フェスティバル2016のチラシ



9月7日付 下野新聞による紹介記事 交流会の幹事の方々

事務局便り



《2016年6月東京文化会館小ホールでのリサイタルCDが10/21発売になりました》



◇収録曲:

モーツァルト :ピアノ・ソナタ第5番 ト長調k. 283
 :ピアノ・ソナタ第11番 イ長調 k. 331「トルコ行進曲付」
 ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第8番ハ短調Op.13「悲愴」
 :ピアノ・ソナタ第31番 変イ短調Op.110

SONARE1031 ¥2,400(税抜) ¥2,592(8%税込)

⇒ファンクラブでは割引(2,400円送料込)でお分けします。

会員の方は下記梯剛之オフィシャルファンクラブへお申し込みください。

E-mail takeshikakehashiofc@gmail.com

☎ : 090-6448-9324 FAX: 03-3421-9772

※CDに就いてのお問い合わせ:ソナーレ・アートオフィス ☎:03-5754-3102 FAX:03-5754-3103

E-mail info@sonare-art-office.co.jp



《2015年12月 東京JTホール収録版CD 2016年11月21日発売開始
 ヴォルフガング・ダヴィッド&梯剛之 デュオ・リサイタル Vol.3》



◇収録曲: フォーレ :ヴァイオリン・ソナタ 第1番 イ長調 作品13
 ベートーヴェン:ヴァイオリン・ソナタ 第3番 変ホ長調 作品12-3
 :ヴァイオリン・ソナタ 第7番 ハ短調 作品30-2

SONARE1032 ¥2,400(税抜) ¥2,592(8%税込)

⇒ファンクラブでは割引(2,400円送料込)でお分けします。

会員の方は下記梯剛之オフィシャルファンクラブへお申し込みください。

E-mail takeshikakehashiofc@gmail.com

☎ : 090-6448-9324 FAX: 03-3421-9772



ファンクラブ事務局では、梯さんの公演をご自分で企画実施したいという会員の方には、現在進行中の和光大学ポプリホール公演にあるように、開催までのお手伝いを致します。子どもに伝えるクラシックの活動と共に何なりとご相談下さい。

編集発行 2016年 10月 吉日
 梯剛之オフィシャルファンクラブ (会長 加藤 秀明)

発行人 事務局長 稲田 俊介
 編集人 星田 啓子 原稿整理・校正 松本 節子
 〒214-0038 神奈川県川崎市多摩区生田6-10-8-202
 E-mail: takeshikakehashiofc@gmail.com
 電話:090-6448-9324 FAX: 03-3421-9772

協力:米沢信用金庫
 NPO 子どもに伝えるクラシック
 八王子六つ星会(点訳)
 古家峰子・上海道洋子(発送手配)



“子どもに伝えるクラシック”

下記のWEBで活動状況更新をしています

<http://classic-for-children.org/>

梯剛之公式HP

公演情報を更新しています。

<http://kakehashi-takeshi.com/JA/index.html>

梯 剛之 コンサート・チケット情報 (1)

【三重県文化会館～ランチタイムに1時間楽しむワンコインコンサート～】

■日程 : 11月9日 (水) 10:45開場 11:30開演 (12:30終演予定)

■会場 三重県文化会館 大ホール

■演奏 チェロ 伊藤悠貴 ピアノ 梯剛之

■演奏曲目

| | |
|---------|----------|
| エルガー | 愛の挨拶 |
| サン＝サーンス | 白鳥 |
| ラフマニノフ | ヴォカリーズ 他 |

■チケット取扱: 全席自由/500円 当日発売当日券のみ
三重県文化会館チケットカウンター ☎059-233-1122

【石川県小松市 ヴォルフガング・ダヴィッド & 梯剛之 デュオ・リサイタルⅢ】

■日程 : 12月9日 (金) 18:30開場 19:00開演

■会場 こまつ芸術劇場うらら小ホール

■演奏曲目

| | |
|---------|---------------------------|
| モーツァルト | ヴァイオリン・ソナタ第41番 変ホ長調K. 481 |
| モーツァルト | ヴァイオリン・ソナタ第29番 イ長調K. 305 |
| ドビュッシー | ヴァイオリン・ソナタ |
| ベートーヴェン | ヴァイオリン・ソナタ第10番 ト長調 作品96 |

■チケット取扱: 全席自由 一般4,000円 ペア券3,800円 小学生2,500円
オトガク 木田 ☎0761-22-9366 FAX 0761-48-6680
ファンクラブ会員割引あり/事務局 ☎090-6448-9324 FAX03-3421-9772

【東京都港区 ヴォルフガング・ダヴィッド & 梯剛之 デュオ・リサイタル2016】

■日程 : 12月13日 (火) 18:30開場 19:00開演

■会場 J Tアートホール アフィニス

■演奏曲目

| | |
|---------|---------------------------|
| モーツァルト | ヴァイオリン・ソナタ第41番 変ホ長調K. 481 |
| モーツァルト | ヴァイオリン・ソナタ第29番 イ長調K. 305 |
| ドビュッシー | ヴァイオリン・ソナタ |
| ベートーヴェン | ヴァイオリン・ソナタ第10番 ト長調 作品96 |

■チケット取扱: 全席自由 一般4,000円 ペア券3,500円 学生券2,500円
ソナーレ・アートオフィス ☎03-5754-3102
ファンクラブ会員割引あり/事務局 ☎090-6448-9324 FAX03-3421-9772



11月19日 (水)
三重県文化会館



12月9日 (金)
こまつ芸術劇場



12月13日 (火)
J Tアートホール

梯 剛之 コンサート・チケット情報 (2)

【東京都世田谷区 昭和女子大学アートマネジメントコンサート】

■日程 : 2017年1月21日 (土) 14:30開場 15:00 開演

■会場 昭和女子大学 人見記念講堂

| | | |
|-------|----------|---------------------------------|
| ■演奏曲目 | ヘンデル | ハープ協奏曲 変ロ長調 HWV294 |
| | チャイコフスキー | ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35 第1楽章 |
| | プッチーニ | オペラ「ラ・ボエーム」よりムゼッタのワルツ” 私が街を歩くと” |
| | ベートーヴェン | ピアノ協奏曲第4番 ト長調 作品58 第1楽章 |

■演奏 世田谷フィルハーモニー管弦楽団

梯剛之 (ピアノ) / 瀬川真未 (ハープ) / 高瀬真由子 (ヴァイオリン) / 鈴木江美 (ソプラノ)

■チケット取扱: 全席自由 1,000円

ソナーレ・アートオフィス ☎03-5754-3102

【東京都町田市 和光大学ポプリホール鶴川 チャリティリサイタル】

■日程 : 2017年2月4日 (土) 13:00開場 13:30開演

■会場 和光大学ポプリホール鶴川

| | | |
|-------|--------|--------------------------------|
| ■演奏曲目 | モーツァルト | 幻想曲ニ短調K. 397 / ピアノソナタニ長調K. 576 |
| | ショパン | ノクターン第二番変ホ長調 / スケルツォ第二番変ロ短調 |
| | ドビュッシー | 2つのアラバスク |
| | ベルク | ピアノソナタ作品1 |

■チケット取扱:

全席自由 3,800円 ※視覚に障がいのある方のチケットは3,500円

和光大学ポプリホール鶴川 (窓口販売のみ)

町田市民ホール窓口 (☎予約できます 042-1150-5839)

風間幸子 (かざま) ☎080-1150-5839

ファンクラブ会員割引有 / 事務局 ☎090-6448-9324 FAX03-3421-9772

【八王子市 いちょうホール】

■日程 : 2017年5月3日 (水) 14:10開演

■会場 八王子市 芸術文化会館いちょうホール

| | | | |
|-------|---------|--------------------|----|
| ■演奏曲目 | ベートーヴェン | ピアノ協奏曲第4番 / 交響曲第8番 | ほか |
|-------|---------|--------------------|----|

共演 オーケストラ・アンサンブル・バウム

■チケット取扱: 詳細未定 問合せ: ソナーレ・アートオフィス ☎03-5754-3102



2017年1月21日
昭和女子大学
人見記念講堂



2017年2月4日
和光大学
ポプリホール鶴川